

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	学年	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う。	92.0%	95.2%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある。	63.6%	72.3%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う。	88.8%	93.9%
	目標の達成	18 普段から「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある。	78.4%	73.9%
		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。	87.6%	92.5%
	他者との協働	71 私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。	83.1%	89.8%
	学力と関係が深い質問	27 板書に書かれていないことでも、大事なことはノートに書きとめている。	62.5%	71.2%
		30 新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。	42.7%	54.7%
		35 自分で学習の計画を立てている。	50.6%	53.6%
観点・領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題			
国語	話す力・聞く力	○全国平均正答率を上回る設問はなかった。 ▲全国平均正答率を8.5ポイント下回り、（話し合いの目的を選ぶ）設問に課題がある。		
	書く力	○全国平均正答率を上回る設問はなかった。 ▲全国平均正答率を17.4ポイント下回り、（条件に従って文章を書き直す）設問に課題がある。		
	読む力	○全国平均正答率を3.6ポイント上回り、（正しい接続詞の組み合わせを選ぶ）設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を11.0ポイント下回り、（条件に従ってまとめの中の空欄に入る言葉を書く）設問に課題がある。		
	言語についての知識・理解・技能	○全国平均正答率を2.7ポイント上回り、（同じ構成の三字熟語を選ぶ）設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を10.5ポイント下回り、（漢字の書き「自動車のせいぞろ工場。」）設問に課題がある。		
数学	数と式	○全国平均正答率を上回る設問はなかった。 ▲全国平均正答率を12.0ポイント下回り、分数のかけ算に課題がある。		
	図形	○全国平均正答率を2.4ポイント上回り、縮図の作図をする設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を11.0ポイント下回り、角柱の体積を選ぶ設問に課題がある。		
	関数	○全国平均正答率を上回る設問はなかった。 ▲全国平均正答率を16.9ポイント下回り、考え方について説明する設問に課題がある。		
	データの活用	○全国平均正答率を1.4ポイント上回り、金額の差を求める設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を4.6ポイント下回り、5人から3人を選ぶ設問に課題がある。		
英語	聞くこと	○全国平均正答率を9.8ポイント上回り、具体的な情報を聞き取る設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を12.0ポイント下回り、身近な内容を聞き取る設問に課題がある。		
	読むこと	○全国平均正答率を2.3ポイント上回り、単語（既習）を読み取る設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を0.2ポイント下回り、単語（未習）を読み取る設問に課題がある。		
	書くこと	○全国平均正答率を1.4ポイント上回り、文字を記述する設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を2.2ポイント下回り、文字を記述する設問に課題がある。		
2 生徒の実態		3 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組		
【様式2に記載】		【様式2に記載】		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和6年8月末時点で完了している生徒	94.5%（87人／92人中）	
確認テストの実施状況		令和6年8月末時点で完了している生徒	80.4%（74人／92人中）	

令和6年度 学授業改善推進プラン（中学校・教科担任用）

第三中学校 第1学年

国語科	教科担任 湯浅 愛、綾部 恭彦
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果、「話す・聞く」と「書く」領域で、上回っている領域がなかった。特に、「書く」領域においては過半数が下回る設問となり、多くの課題があると考えられる。 ・普段の授業の取り組みや、授業アンケートでは多くの生徒が国語の授業に積極的であり、課題にも意欲的に取り組んでいる。しかし、作文や記述に苦手意識をもつ生徒が実際に多いように感じられる。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器である iPad を活用し構成や推敲を修正しやすいデータ上で行い、清書は原稿に書くなど、場面や目的に応じて使い分けることで「書くこと」に対して、苦手意識を少なくしていく。
社会科	教科担任 河野 伸二郎
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して意欲的に取り組む生徒が多い。 ・小学校での既習事項が未定着の生徒もいる。 ・文章で説明することが苦手。 ・コロナウイルスの影響などもあり、生活体験が不足しているため、学習内容と実生活が結びついていない生徒が多い。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を小テスト形式で確認する機会を設ける。 ・単元における小学校の学習とのつながりを意識し、導入時に確認しながら進める。 ・学習のまとめの際に、社会的事象の特色や自分の考えを記入し、他者に説明させる時間を設ける。また、習熟度に応じて、まとめる方法を制限することで、表現力を高めていく。 ・導入時に、ICT 機器などを活用し、視覚的に節の探求課題や学習課題に疑問をもたせるように工夫する。
数学科	教科担任 志村 聡
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業に対して真面目に取り組む生徒がいる一方、授業に集中できない生徒もいる。 ・小学校で既習の基本的な計算を苦手としている生徒が多くみられ、福生市の学力調査でも数と計算の領域の正答率が特に低い。また、成り立つ理由を説明する問題を苦手としている生徒が多い。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な内容が身に付いていない生徒には、基本的な問題に繰り返し取り組ませる。 ・意欲的な生徒には、思考力を高めるような問題に取り組ませる。 ・授業後に宿題を出し、生徒が演習や振り返りができるようにしていく。

理科	教科担任 堀 和宏
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言したり、実験・観察に意欲的に取り組めたりする生徒が多い。 ・計算力に課題がある。 ・論理的に思考することが苦手な生徒が多い。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習の時間を授業に組み込む。教え合い、高め合う時間も設ける。 ・毎回の授業で生徒が思考できるような発問をし、思考と発表の時間をとる。
音楽科	教科担任 田中 悦子
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力の続かない生徒もいるが、一生懸命取り組んでいる生徒が多い。個々の歌唱力はそうでもないが、全体ではまとまり感のある歌声で歌唱できる。 ・ノート等もほとんどの生徒が提出できている。 ・発言を求めた時、各クラスに2名程度、何も話せない生徒がいる。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱におけるパート練習では、ICTを使用し、パート全体が共有できる楽譜と楽譜への書き込みを通じて、知識や技能を身につけていく。 ・生徒同士の協働学習によって、意識を高めていく。
美術科	教科担任 大倉 知恵
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組みは前向きな生徒が多い。 ・一部の生徒は集中力に欠ける。 ・作品のイメージを練って制作できる生徒と、考えられない生徒の差がある。 ・一部の生徒はお互いにアドバイスすることができる。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材での導入で鑑賞やICTの活用を行い、制作の意欲を向上させる。 ・集中できない生徒に対しては、声掛けやアドバイスを行いながら取り組ませていく。 ・生徒同士のアドバイスや関りを増やし、色々な考えの中から発想を広げさせる。 ・進行状況を確認しながら、より良い作品にするために考えさせる。

保健体育科	教科担任 安田 裕昭
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が得意、好きという生徒と苦手、嫌いという生徒の二極化傾向にある。 ・運動が苦手、嫌いが原因で、体育の授業の見学が多い生徒が一部いる。 ・授業中の課題に対しては積極的に取り組む生徒が多くいる。 ・地道な反復練習を苦手としている生徒が多い。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別の学習機会を作り、運動が苦手な生徒の底上げと、得意な生徒の力をさらに高めることを同時進行させる。 ・運動が苦手な生徒については、スモールステップの課題設定をして、達成感を味わえるよう工夫する。 ・課題解決に向けて、必要な練習を自分で考え、実行させる。
技術科	教科担任 久保田 翔子
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に積極的に取り組む。とくに製作作業においては、与えられた資料等を活用し、自分なりに思考を重ねたり、他者と協働したりして、楽しそうに取り組んでいる。 ・集中してインプットし、失敗を恐れずに挑戦できる生徒が多い。積極的に質問もできるため、トライアンドエラーを繰り返しながら基礎技能を定着できている。 ・アウトプットにおいては課題がみられる。作業時や、講義を受けた後のレポート、作業を終えてのレポートなどで、学習したことを発揮・まとめることを苦手とする生徒が多い。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をイメージでとらえられるように、写真や動画での説明を主とする。 ・学習用 iPad を活用し、カラー写真資料や動画配信を行い、生徒が自分の手元で何度でも既習事項を確認できるようにする。 ・グループ編成を工夫する。他者と協働しながら作業を進められるように、製作品が同じ者同士でグループを編成する。 ・毎時間の振り返りや單元ごとのレポート作成の時間を十分に確保する。 ・達成感や充実感をもたせるため、明確で全員が達成できるような目標を設定する。
家庭科	教科担任 瀬尾 裕美
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・とても意欲的に取り組んでいる。指示をよく聞き、プリントの記入などもしっかりできる生徒が多い。 ・実習が好きな生徒が多い。とても集中して取り組んでいる。 ・話をよく聞き、授業に取り組んでいるが、全体の説明で理解できず、個別の指導が必要な生徒も多い。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・能力の差にできるだけ対応できるよう、個人的に声をかけたり、個別で指導していく。 ・作品製作ではそれぞれの力に合わせた目標をもたせ、充実感・達成感を味わせる。 ・毎時間の進行チェックシートで、その日に出来たことと、次回頑張ることが分かるようにしていく。

英語科	教科担任 岩尾 京子・小林 真央・山内 正治
生徒の実態	<p>[聞くこと] 小学校の英語の授業の影響から、英文の内容を聞いて理解できる生徒が多い。</p> <p>[読むこと] 知っている単語であっても、発音がわからないために意味がわからずにつまづいてしまう生徒がいる。</p> <p>[話すこと (やり取り)] 英文の正確性は十分ではないが、ペアでの言語活動に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>[書くこと] 小学校の英語の授業の成果か、正しくアルファベットを書くことができる生徒が多い。しかし、フォニックスの知識が不十分なため、多くの生徒が書くことに困難を感じている。</p>
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<p>[聞くこと] 授業の進度にあわせて副教材を活用する。</p> <p>[読むこと] 新出単語の練習を繰り返し行い、教科書の音読指導に重点を充てる。</p> <p>[話すこと (やり取り)] skit やペアワークを多く取り入れていく。</p> <p>[話すこと (発表)] まだ取り組んだことがないため、今後年間で数回は、発表のパフォーマンステストの機会を設ける。発表後には必ず振り返りを書かせ、他者の良い点・自己の改善点を見つめる時間を設ける。</p> <p>[書くこと] 毎回授業のまとめは書く活動を行い、その内容を ALT に添削してもらうことで書く力を定着させる。また、副教材を効果的に使用させることで書くことに慣れさせる。</p>